

「R-PDCA指導サイクル」 導入事例のご紹介

「R-PDCA指導サイクル」を導入している学校では、「ミライシード」を積極的に活用していただきながら、データに基づき、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに日々取り組んでいただいています。



愛媛県西条市立神戸小学校の事例

～カルテに基づく指導力向上サイクルの実現にむけて～

西条市では小学校2校、中学校1校で「R-PDCA指導サイクル」の取り組みを実施。学習履歴管理ツール「カルテ」に反映されたデータをどう指導に生かしていくのかを教育委員会のリーダーシップのもと、学校と一体となり進めています。



「カルテ」のデータを確認しICTサポーターと先生で授業計画を検討

「カルテ」に蓄積されたデータはとても重要。「R-PDCA指導サイクル」の取り組みを通してエビデンスに基づく教育施策の実現になると期待 **西条市教育委員会 渡部 善氏**

「何となく」「教師の感覚で」というのも大事だが、しっかりとしたデータがあることで自信をもって指導できる

西条市立神戸小学校 十亀亮一先生



QRコードから詳細をご確認いただけます。

埼玉県戸田市立戸田第二小学校の事例

～学校とICTサポーターで創る「主体的・対話的で深い学び」の授業～

5年生5クラスの先生方とともに、「R-PDCA指導サイクル」を通して、「ミライシード」を活用しながら、先生の発問の仕方や児童の発表のさせ方の検討をより深める取り組みを実施。「アクティブラーニングガイド」を参考にしながら、学年全体で指導改善に積極的に取り組んでいただいています。



ICTサポーターと学年の先生方と「アクティブラーニングガイド」を使って先生の発問や「ミライシード」の効果的な活用について検討

「ミライシード」をどこで使うかの焦点化やどのような発問をすることで深い学びになるかなどについて検討。教師の教材研究の質が高まった **戸田市立戸田第二小学校 校長 小高恵美子先生**

授業で身につけさせたい力を意識するようになった。エビデンスに基づく教育を学年だけでなく、学校全体に広めていきたい **戸田市立戸田第二小学校 中里直之先生**



QRコードから詳細をご確認いただけます。

※ここに掲載の情報は2019年3月時点のものです。

詳しくはベネッセの営業担当者まで、お気軽にお問い合わせください。

株式会社ベネッセコーポレーション
小中学校事業部

SCHOOL ONLINE
www.teacher.ne.jp

TEL 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日・お盆期間・年末年始を除く)

[学校・教育機関専用] **0120-8888-44**

通話料無料 ※一部のIP電話からは086-235-2257へおかけください(通話料がかかります)。

[学校・教育機関以外] **086-235-2257**

FAX 086-235-2258 E-mail school@mail.benesse.co.jp

ミライシード

教育エビデンスに基づく 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり

「R-PDCA指導サイクル」実践事例のご紹介

新学習指導要領では、カリキュラムマネジメントにおいてエビデンス(根拠となる数字)に基づく指導改善、学校経営が求められています。

ベネッセでは「主体的・対話的で深い学び」における児童・生徒の行動や資質能力の変容に着目し、その可視化に取り組んでいます。

タブレット学習ソフト「ミライシード」を効果的に活用する、データに基づく「R-PDCA指導サイクル」をご提案します。



監修者 早稲田大学大学院
教職大学院
田中博之 教授

「主体的・対話的で深い学び」に着目した 独自の行動調査アンケートを活用

田中博之教授監修のもと、タブレット学習ソフト「ミライシード」を活用した「主体的・対話的で深い学び」による児童・生徒の行動や資質能力の変容についての独自アンケートを活用して、調査・分析を行いました。本調査により「ミライシード」を活用した児童・生徒の質的変容を検証し、エビデンスに基づいた指導改善につなげることができました。

児童・生徒向け設問設計

- 主体力 (主体的)
- 成長力
- 対話力 (対話的)
- 協働力
- 創造力
- 活用力
- 解決力 (深い学び)



QRコードから詳細をご確認いただけます。

「R-PDCA指導サイクル」で先生方の授業づくりを支援し、エビデンスを基に児童・生徒の資質・能力向上を目指します。

QRコードから「R-PDCA指導サイクル」の説明動画をご覧いただけます。



Research / 状況把握

児童・生徒にどんな力をつけさせるのか、日々の授業における目標設定をするために、児童生徒の現状がどのような実態になっているのかを把握することが大切です。田中博之教授監修のもと設計した「アクティブ・ラーニング行動調査」のアンケートに「Evit(エビット)」を使ってタブレット上で取り組みます。児童生徒の実態を把握することで、授業計画が立てやすくなり、また学校や学年、クラスでの伸ばしていきたい力について検討するきっかけになります。

「アクティブ・ラーニング行動調査」質問項目の例

- 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか理由も説明している (主体力)
- 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えるようにしている (対話力)
- グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている (協働力)
- 集めた資料やデータをつかって、わかりやすく説明したり発表したりしている (活用力)



効果検証ツール「Evit(エビット)」



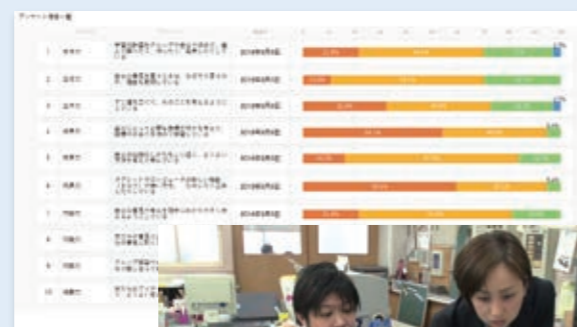
Plan / 指導計画

状況把握(Research)で明らかになった児童・生徒の状況に基づいて目標項目や伸ばしたい力を設定します。ICTサポーターは全国での先行事例や「すぐ使えるアクティブ・ラーニングガイド～思考を促す言葉～」などを使って、情報提供を行います。伸ばしたい力を意識した授業をICTを活用しながら、どのように実施していくとよいか、先生とともに、検討していきます。



「すぐ使えるアクティブ・ラーニングガイド～思考を促す言葉～」

授業で効果的な「思考を促す発問」「発表のさせ方」「ミライシードの活用」を教科ごとにまとめたもの



学習履歴管理ツール「カルテ」

先生(写真左)はICTサポーター(写真右)と授業案を検討、アンケート結果を「カルテ」で確認



Do / 授業の実践

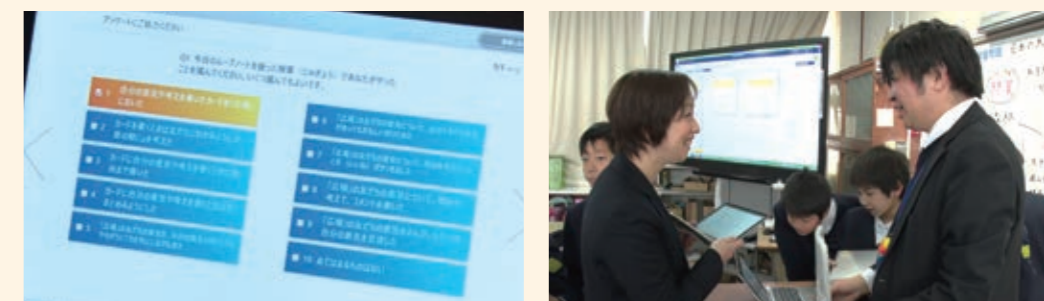
エビデンス

先生はPlan(指導計画)で定めた伸ばしたい力を意識しながら授業を実施します。ICTサポーターはT2として授業に入りながらタブレット学習ソフト「ミライシード」やICT機器の活用支援をします。事前に先生と計画した授業の実現に向けて授業中も先生や児童・生徒の様子に目を配ります。「主体的・対話的で深い学び」を通して、児童・生徒の力を伸ばしていく授業支援を行います。



Check / 振り返り、評価

授業のあとは、「Evit(エビット)」を使ってタブレット上で振り返りのアンケートに取り組みます。授業の実践によって児童・生徒がどのように変化したかを測定します。また児童・生徒自身が授業での振り返りをメタ認知できる効果もあります。ICTサポーターは授業後、「カルテ」を見ながら先生と振り返りをします。今日の授業のねらいが達成できたか、ICT活用の場面は効果的だったかなどを確認し、次の授業支援につなげます。



Action / 指導改善

先生は、得られたエビデンスデータや、毎回の授業の振り返りから次の授業の実践につなげていきます。ICTサポーターは「ミライシード」の教材改善など、さらにより授業ができるようご支援を続けていきます。

